

香川大学片岡副学長が三好市の果実用シラクチカズラの試験地を視察

平成 30年 8月 2日
徳島森林管理署

- 1 徳島森林管理署では、三好地域の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋、奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保と果実の特産化に、三好市、香川大学農学部との3者で連携して取り組んでいます。
- 2 シラクチカズラ(学名はサルナシ)はマタタビやキウイフルーツの仲間で、その果実はビタミン、抗酸化物質など機能性に優れた成分を含んでおり、果実酒、ジャム、ジュースなどに加工されており、三好市山城町が果実の特産化に取り組んでいます。
- 3 このような中で、三好市にある旧徳島県農業試験場池田分場の敷地内に、昭和63年頃に果実の繁殖用として旧西祖谷山村小祖谷地区で採取した穂木を挿し木によりシラクチカズラを、定植・管理していることが分かり、8月1日、つる性植物の権威である香川大学の片岡副学長(前農学部教授)が現地を視察し、シラクチカズラの管理方法や、果実の活用方法などについて、徳島県三好農業支援センターを交えて意見交換を行いました。
- 4 徳島森林管理署では、シラクチカズラの果実の特産化を通じた地域振興について、農業分野の関係機関とも連携し積極的に展開していきます。



旧池田分場にあるシラクチカズラの視察の様子



昭和63年に定植したシラクチカズラ